

式 辞

卒業生・修了生の皆さん、本日は誠におめでとうございます。

保護者・ご家族の皆様におかれましても、藍野大学短期大学部の教職員を代表して、心よりお祝いを申し上げます。また、お忙しい所ご臨席賜りましたご来賓の皆様
に厚く御礼申し上げます。

さて、卒業・修了に際して、「当たり前のことかもしれませんがなかなか難しいこと、最近の日本で失われつつあること」をお話したいと思います。

本日、本学を卒業・修了し、四月からそれぞれの新しい道を歩んでいかれることと思います。多くの方が患者さんや対象者を支援する対人援助職に就かれます。人を支援する際には、本学で培った知識や技術を活用しながらお仕事をされることでしょう。知識や技術は現場に出てもアップデートされることと信じています。

今からお話しすることは自分で普段から意識しないとなかなかできないことかもしれません。それは、「患者さんに配慮する、職場の人に配慮する」ことです。「配慮」とは、「相手に迷惑をかけない、相手の立場に立って理解すること」です。配慮は適切な人間関係を維持するために、極めて重要な役割を果たします。他人のことを横に置いて、自己中心的な判断をしそうになった時には、今日の私の話を思い出し、皆さんの中にある「思いやりの心」を引き出していただければと思います。配慮のできる人になるためには、まずは自分自身が心身ともに健康であることが重要になります。

す。対人援助職、すなわち支援する側はセルフケアについても、引き続き勉強していただきたいと思っています。

私も若い頃に臨床にいたころは、「患者さんのために」という思いが強くなりすぎて、自分では配慮しているつもりが大きなお世話になったのではないかと思ひ返しています。繰り返しになりますが、自分のことも大切にしながら、患者さんや職場の人へ気遣いができる看護師・保健師になっていただけたら嬉しく思います。

卒業生ならびに修了生の皆さんには、藍野大学短期大学部で学んだことを誇りに、「病める人々を医やすばかりでなく慰めるために」という教育理念を是非とも社会人になってからも思い出していただき、日々進歩する医療・保健の現場で、これからの専門職人生を歩み続けていただきたいと思っています。

今後、臨床現場で本学出身の先輩方に出会うことも少なくないと思います。皆さんが社会へ旅立たれた後も、私たちは皆さんを応援し続けますが、多くの先輩方もきっと皆さんの味方になってくれると思います。

結びになりますが、看護師あるいは保健師として、そして社会人としてのご活躍とご多幸を心からお祈りし、私からの式辞といたします。

本日は誠におめでとうございます。

令和七年三月十四日 藍野大学短期大学部 学長 足利 学